



DAIRY FARM NEWS 2016年12月号

継続加入申込書の提出と 会費・保険料納入のお願い

今月中に、皆様のお手元に継続加入申込書の提出依頼書をお送りいたしますので、必要事項をご記入いただき、**平成29年1月31日(火)**までに事務局までご返送いただきますようお願いいたします。継続加入申込をいただいた方には、追って会費・保険料のご請求書をお送りいたしますので、ご納入いただきますようお願いいたします。

平成28年度 国産ナチュラルチーズ 製造技術初級研修会・北海道会場 受講者募集のご案内

中央酪農会議では、生乳生産者等が製造する牛乳乳製品の需要創出・消費拡大の取り組みを支援し、国産牛乳乳製品の需要確保及び生乳生産基盤の維持を図ることを目的として、国産ナチュラルチーズの製造の知識・技術の習得・向上、衛生管理強化等の製造技術研修会の開催を下記のとおり予定しております。

開催要領(予定)

日程	平成29年3月1日(水) 13:00～ 3月3日(金)～12:00
会場	帯広畜産大学 北海道帯広市稲田町西2線11番地
募集人員	20名
参加対象	ナチュラルチーズ製造に興味を持ち、将来に製造及び工房立ち上げを希望する酪農家、チーズ製造に携わって間もない工房製造担当者等
プログラム	講義：チーズ製造の基礎知識、チーズ用スター・リネットの基礎知識、衛生管理基準について、中小施設機械・器具事例について、チーズ製造機器・工房を設けるにあたって 実習：ルッコタイプとセミハードタイプの製造実習

お申し込み方法やプログラムの詳細情報については、中央酪農会議HPに近日掲載予定ですので、そちらをご覧ください。

熊本地震の震災支援に係る わくわくモーモースクールの 実施について

平成28年4月の熊本地震で被災した子どもたちの心の傷を癒すことを目的に、交牧連として、小学校に出前授業を行なうこととなりました。是非ご協力いただければ幸いです。

開催要領(予定)

日程	平成29年2月17日(金) 午前中
場所	熊本市立帯山西小学校 熊本県熊本市中央区帯山1-29-8
実施対象	帯山西小学校1年生及び近隣の幼稚園児・保育園児【約160名】
体験内容	搾乳体験、哺乳体験、心音聴き体験、バター作り体験、小動物ふれあい体験

この件については、詳細が決定次第ブロック事務局を通じてご案内させていただきます。

交牧連に新たな仲間が 加わりました!



今年度新たに加入された会員牧場を紹介します。

- 東北ブロック: 秋保 柴田牧場(宮城県)
- 関東ブロック: 荻原牧場(静岡県)
- 近中四ブロック: 大阪府立農芸高等学校(大阪府)

※平成28年12月現在、312会員です。

今年もお世話になりました。
来年も何卒宜しくお願いいたします。
良いお年をお迎えください。



★MILK JAPANのHPやFacebookも見てくださいね!

事務局
からの
ご挨拶

4月より事務局長を務めさせていただくことになりました、「齋藤さんだぞ!」。皆様の活動が円滑に進むよう頑張りますので、主担当の宮野共々よろしくお願いたします。「ぺっぺっぺー!」



平成28年度全国研修会を開催 ももースクール(震災復興支援事業)を実施 若手の集い第4弾!『ちくのうサミット in 青森』を開催



発行日/2016年12月 発行/地域交流牧場全国連絡会 〒101-0044 東京都千代田区錦糸町2-6-1 堀内(川)チリコ4階(一社) 中央酪農会議内
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295 ホムペーグ: http://www.dairy-farm.jp/

平成28年度地域交流牧場全国連絡会 全国研修会を開催

日時:平成28年10月19日(水)・20日(木) 場所:休暇村蒜山高原 東館ホール・中国四国酪農大 学 校
後援:中国四国農政局、岡山県、(公財)中国四国酪農大 学 校、(一社)中央酪農会議、中国生乳販売農業協同組合連合会、おかやま酪農協同組合、蒜山酪農農業協同組合

本会は、意見・情報交換などを通じて相互研鑽を行うとともに交流を図ることを目的として、10月19～20日に、近中四ブロックで全国研修会を開催しました。開催場所は、地域でジャージー種の6次産業に取り組む、岡山県真庭市蒜山高原でした。

冒頭の主催者あいさつで清水ほづみ会長(愛知県・清水牧場)は、「交牧連は仲間を大切にすると、会長になって改めて思った。この研修会で、皆さんがこの輪を広げていける事を祈る」と参加者に伝えました。当日は7名の来賓をお招きし、平山氏・内橋氏・真田氏の3名から祝辞をいただきました。

1日目の研修は、研修開催地である蒜山地域の酪農の歴史や現状について知見を得る為、蒜山酪農農業協同組合生産課の中村貢易課長にご講演いただきました。そして、中村課長の講演を踏まえ、パネルディスカッションを行ないました。テーマは「今後の日本酪農の発展的展望～蒜山酪農60年の歴史を受けて～」です。コーディネーターは、蒜山地域の酪農経営について研究をされた、乳の社会文化ネットワークの幹事を務める、和仁皓明先生に依頼しました。まずパネラーの4名にそれぞれ自己紹介をいただき、各々のテーマについてパネラーとフロアの意見を聞きながらディスカッションを進めました。交流会では近畿・中国・四国ブロックの皆さんが場を盛り上げてくれました。

2日目は、同じ蒜山にある中国四国酪農大 学 校の2つの牧場を視察。様々な経営を学習できるよう、第一牧場はホルスタイン種をストール式で、第二牧場はジャージー種をフリーストール式で飼育しており、学生の誰が見ても分かるよう、餌の分量や日々の体細胞数を掲示する工夫が見られ、参加者は興味津々の様子でした。

研修2日間とも天候に恵まれ、風光明媚な蒜山高原を満喫した参加者は、皆様大変満足そうでした。

- 来 賓** (敬称略)
- 平山 雅通 (中国四国農政局 畜産課長)
 - 新垣 峰雄 (中国四国農政局 生産部畜産課 畜産物流通指導官)
 - 津寺 春良 (岡山県農林水産部 畜産課総括参事)
 - 山田 義和 (公益財団法人中国四国酪農大 学 校 校長)
 - 内橋 政敏 (一般社団法人中央酪農会議 事務局長)
 - 吉原 謙一 (おかやま酪農協同組合 代表理事専務・中国生乳販売農業協同組合連合会 監事)
 - 真田 善弘 (蒜山酪農農業協同組合 代表理事組合長)



パネルディスカッションダイジェスト

- ～6次産業化を行なうきっかけとは?～**■コーディネーター ■パネラー ■フロア**
- 山田「生産調整の時代を6次化で切り抜けるためだった」
 - デンマーク牧場(静岡県)・小久保「自分の牧場でも生産調整の時代に始めた。ただ、儲けることが目的ではなく、地域と馴染むためでもある」
 - 中国四国酪農大 学 校・山本(2年生)「自分は6次化を目指し将来経営者になりたいと思っている。今は情熱だけだが、これから現実に向き合いたい」
- ～ビジネスとしての6次産業～
- 山田「物売ることは、酪農とは違うセンスが必要」
 - 石田「作ったものを売るところまで責任がある。通常、酪農は生乳を生産したら、指定団体が全て売り切ってくれる。このシステムのすこさを実感した」
 - 和仁「酪農と6次化は全く違うビジネスだが、どこで勉強したか?」
 - 山田「商工会議所のセミナーを受けるなどした」
 - 石田「マーケティングは独学」
 - 和仁「酪農経営と6次化の生産までの勉強は酪農大 学 校でできるか?」
 - 秋山「6次化、観光牧場等様々な希望があるなか、対応したカリキュラムを用意している」
- 中国四国酪農大 学 校・岡田(1年生)「観光牧場での就職を目指す自分としては、牛を飼う事の知識だけではなく、コミュニケーション能力が大事だと思っている。消費者の理解のために、伝える力も大事だと、話しを聞いて実感した」
- ～後継者に繋ぐために～
- 和仁「ネットワークが非常に重要ですね」
 - 山田牧場(滋賀県)従業員・長崎「外に出て同年代の酪農従業員と話すことは、刺激にもなるしモチベーションにもなる。外に出してくれる社長に感謝している」
 - 交牧連理事・花房(兵庫県)「交牧連に入り、全国に仲間がたくさんできた。酪農を行なう上で大きな活力となった。これから酪農を目指す学生達は、応援してくれる家族や先生、仲間を大切にしたい」

和仁先生講評

現在の酪農家は、搾乳のみならず、6次産業化のプロフェッショナルもいて、学生が憧れる酪農家になっている。これからも互いに連携し、知恵を出し合い、活躍して欲しい。

プログラム ※敬称略

- 10/19(水)
- 主催者挨拶:地域交流牧場全国連絡会 会長 清水 ほづみ
来 賓 挨拶:
講 演 「ジャージー種で自然と観光の共生を目指す」
蒜山酪農農業協同組合 生産課 課長 中村 貢易
- パネルディ:「今後の日本酪農の発展的展望
スカッション ～蒜山酪農60年の歴史を受けて～」
【コーディネーター】
乳の社会文化ネットワーク幹事 和仁 皓明
【パネラー】
蒜山酪農農業協同組合 生産課 課長 中村 貢易
山田牧場(滋賀県)代表 山田 保高
(有)石田牧場(神奈川県)代表取締役 石田 陽一
(公財)中国四国酪農大 学 校 副校長 秋山 俊彦
- 閉会挨拶:地域交流牧場全国連絡会 副会長 渡辺 隆幸
交 流 会
10/20(木)
- (公財)中国四国酪農大 学 校視察、ひるぜんジャージーランド(昼食)

平成29年度の全国研修会は東海ブロックで開催予定です!多数の参加をお待ちしています!

震災復興支援事業

もーもースクールを実施

本会は、乳牛や酪農家とのふれあいを通じて、東日本大震災で被災した子どもたちの心の傷を癒すことを大きな目的として、福島県いわき市で「もーもースクール in 小名浜(9/6)」を、岩手県陸前高田市で「もーもースクール in 竹駒(9/21)」を開催しました。また、宮城県仙台市で東北生乳販連・酪農教育ファーム東北地区推進委員会主催の「もーもースクール in 岡田(10/14)」に協力しました。実施にあたり、全国の会員牧場から多数のスタッフが駆け付けるとともに、アイスクリームも提供いただきました。

本事業は平成23年度からスタートし、消費者交流を行う牧場のネットワークである本会の強みを活かすものとして、小学校等への出前授業(もーもースクール)と牧場での酪農体験を、関係機関の協力を得ながらこれまで5カ年実施しています。また、26・27年度に引き続き、宮城県加美農業高等学校の生徒が宮城県のもーもースクールにスタッフとして参加してくれました。訪問した小学校では、校庭に仮設住宅があったり、学区の一部が人の住めない環境になってしまったりと依然として震災の痕跡が残る中でも、素直に牛の来校に大喜びする児童の笑顔に溢れていました。

平成28年度震災復興支援事業 (酪農出前授業:もーもースクール)実施状況

日付	実施校	対 象	内容等	備 考
9/6	福島県 いわき市立 小名浜第二小学校	2年生 74名、 特別支援学級 3名 (計 77名)	酪農体験、 酪農展示、 バター作り、 アイス試食	主催 交牧連 協力 中酪 東北生乳販連 福島県酪
9/21	岩手県 陸前高田市立 竹駒小学校	1年生 10名、 2年生 11名、 3年生 10名、 4年生 11名、 5年生 8名、 6年生 5名 (計 55名)	酪農体験、 酪農展示、 バター作り、 アイス試食	主催 交牧連 協力 中酪 東北生乳販連
10/14	宮城県 仙台市立 岡田小学校	2年生 31名、 3年生 30名、 (計 61名)	酪農体験、 酪農展示、 バター作り、 アイス試食	主催 東北生乳販連 協力 中酪 交牧連



若手の集い第4弾!

『らくのうサミットin青森』を開催

本会は、「クラブ・ユース事業」として、7月7日(木)～8日(金)の2日間にわたり、ABITANIa ジャージーファーム(青森県西津軽郡鮎ヶ沢町)で、「若手の集い第4弾!『らくのうサミットin青森』」を開催しました。全国から約70名の酪農後継者、牧場従業員、学生、関係者が参加しました。

開会式では、クラブ・ユースの石田リーダーと、安原副会長にご挨拶をいただきました。「笑いヨガ」のアイスブレイク、牧場視察の後、ディスカッションに入りました。1日目のディスカッションでは、これまでの若手の集いで寄せられた、「もっと沢山のひとと話したい!」という意見から、「ワールドカフェ形式(4,5人の少人数で短時間のディスカッションを行なう形式。)」でリーダー1人を残し、班員を変えながら、合計4回のディスカッションを行ないました。

2日目は、酪農の情勢や指定団体制度について、中央酪農会議の齋藤次長(交牧連・事務局長)から講義がありました。その後、1日目のディスカッションをもとに、4つのテーマを設け、話したいテーマでディスカッションを行ないました。その中で、「教育ファームという活動を初めて知った」「指定団体の存在を初めて知った」と、学生の皆さんも新しい知見を得たようでした。各班、考えをまとめてもらい、発表後、ディスカッションは終了。最後にABITANIa ジャージーファームのソフトクリームをごちそうになり、第4回の若手の集いは幕を閉じました。



ディスカッションで話された テーマ(一部抜粋)

- 飼養管理 ●酪農教育ファーム
- 六次産業化 ●T P P ●将来性
- これからの酪農 ●後継者・家族
- 女子からみた酪農 ●新規就農
- 仕事の悩み

第5回若手の集いは12月4日(日)に東京で開催しました。また、翌日5日には推進会議を開催し、29年度以降のクラブ・ユース事業について議論しました。その様子は次号のDFニュースでご紹介しますので、楽しみに!

